

## 大切な幼児期の直接体験

年少児も5月から一日保育になり、午後2時に降園するというリズムに少し慣れてきたようです。年少児の保護者の皆さんは、「幼稚園でどんなことをして過ごしているのかしら?」「うちの子は食べ物に随分と好き嫌いがあるけれど、給食を食べているのかしら?」「友達の名前が聞かれるようになって少し幼稚園が楽しくなってきたのかな。」「友達と仲良くしているのかしら。」等々。色々なことを思いいらっしやることでしょう。誰もが抱くこの思い。

幼稚園で過ごす年少児は、同年齢の友達の中でおこる物の取り合いやけんからしきもの、泣く場面も時々見かけますが、勿論楽しいこともたくさんあります。年上の年中児や年長児に面倒を見てもらいながら過ごす時間、担任や生活指導補助員の先生から誉められたり、教えられたり。事務室の職員の関わりから学ぶことなど。小さな体でたくさんの直接体験を通して日々学んでいるところです。

年中児も、年長児もこのような経験を重ね、今の年齢に至っているということになります。

「みんなちがって みんないい」、「十人十色」の言葉のように、色々な友達や人と関わることで人と折り合いをつける力や、人を信じる気持ち、自律心、自分を大切にする気持ち、頑張る力や、諦めない気持ち、豊かな感性、道徳性や規範意識の芽生えなどなど、新しい幼稚園教育要領の中にもある『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』に通じるものが育っていくということになります。

子供たちが体験するすべてのことが、子供たちの知恵や力になっていくのです。認定こども園になって友達が増えると、更に豊かな経験ができることになります。



ゆえに、

子供たちの遊びは大人が思っている以上に大切なことなのです。

大人は、先回りをせず、見守り、必要に応じて手助けをする。励ます、応援をする。

ちょっとしたヒントを出してやるなど。

色々なかたちで関わってやってほしいと思います。

園長 石川 久子